

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	編集後記
別タイトル	EDITORIAL POSTSCRIPT
公開者	東邦大学医学会
発行日	2014.07
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 61(4). p.216 216.
資料種別	その他
著者版フラグ	publisher
メタデータのURL	https://mylibrary.toho u.ac.jp/webopac/TD90930478

第 61 巻の広告掲載会社名および商品名

アステラス製薬	(株)	ミカルデイス	中外製薬	(株)	ミルセラ
第一三共	(株)	ネキシウム	大日本住友製薬	(株)	アイミクス
エーザイ	(株)	アリセプト	(株) ジェイ・エム・エス		
興和	(株)	リバロ	大塚製薬	(株)	エルカルチン
大塚製薬工場	(株)	ラコール	シーメンス・ジャパン	(株)	MAGNETOM Skyra
大鵬薬品工業	(株)	アロキシ	武田薬品工業	(株)	アジルバ
田辺三菱製薬	(株)	レミケード	(株) ツムラ		大建中湯
(株) ヤクルト本社		カンプト			

(ABC 順)

編集委員会

編集委員長：杉 山 篤

編集委員：石 井 良 和

島 田 英 昭

津 熊 久 幸

伊 豫 田 明 三 上 哲 夫

周 郷 延 雄 高 橋 寛

瓜 田 純 久 (ABC 順)

編集後記

私が初めて英語の論文を書いたのは、今から20年ほど前のことである。当時は、インターネットによる文献検索や電子媒体による文献の入手など、想像することもできない時代だった。そのため、図書館などで多くの時間を費やして文献を検索して、必要な文献は学内外に複写を依頼し、入手していた。

さすがに当時は、タイプライターを使って原稿を執筆する必要こそなくなっていたが、グラフは原図をケント紙にレタリング用のシールを張って作成し、顕微鏡写真はフィルムカメラで撮影しなければならなかった。

多くの論文が電子媒体として供給されている現在、昨今話題に上っている文章の“copy & paste”などが簡単に行えるようになった。講義用の資料としてはある程度許容されているものの、さすがに論文の中にそのままの文章を転用することは大きな問題である。そのような著者はこの行為を見抜けないと思っているのかも知れないが、査読システムも進化している。投稿された原稿の文章と既報のものとの一致率を調べるためのソフトが複数開発され、多くの出版社が実際に活用している。今後、東邦医学会雑誌でもその導入が検討されることは必定である。

私にとって英語の論文を書くということは、困難を伴う作業である。私はいまだに他人の文章表現を模倣しなければ英語を書くことができない。文章を模倣することとそ

のまま転用することは異なる。英語の論文は良くも悪くも多くの人の目に触れ、評価を受けることになることを意識しなければならない。

東邦医学会雑誌第61巻4号にも1報の英語の論文が掲載されている。世界への情報発信の場として東邦医学会雑誌が活用されることを嬉しく思っている。今後、オリジナリティーの高い英文論文が東邦医学会雑誌に掲載されることを切に祈っている。

(石井良和)

東邦医学会雑誌 第61巻 第4号

平成26年7月1日発行

編集兼 杉 山 篤
発行人〒143-8540 東京都大田区大森西5丁目21番16号
東邦大学医学メディアセンター内

東邦大学医学会

(振替口座 00190-6-95793)

tel. 03-3762-4151 ex. 2465/fax. 03-3762-5077

e-mail: igakukai@med.toho-u.ac.jp

http://tms.med.toho-u.ac.jp

東京都北区西ヶ原3-46-10

株式会社 杏林舎